

「カレーの日」について

1982年（昭和57年）1月22日に、社団法人全国学校栄養士協議会が学校給食週間を前に、全国の学校給食でカレーの提供を呼びかけました。

学校給食の歴史は古く、明治22年に山形県で始まって以来、全国各地に広がっていきましたが、戦争の影響などにより一時中断されました。

戦後、昭和21年12月24日に、東京都内の小学校で、支援団体から学校給食の再開に向けて給食用物資の贈呈式が行われたことを記念し、12月24日を「学校給食感謝の日」と定められました。また、昭和25年度からは、冬休みと重ならないよう、1か月後の1月24日から1週間を「全国学校給食週間」とし、各学校では給食の歴史や役割について理解を深め関心を高める取組が展開されるようになりました。

しかし、食が豊かになるにつれ食への感謝の気持ちがうすれがちであることから、全国学校給食週間を前に、学校給食関係者が心を一つにして学校給食の重要性について広く理解が得られるよう、社団法人全国学校栄養士協議会の呼びかけにより、1982年1月22日にカレーの日が実施されました。この呼びかけをきっかけに1月22日が「カレーの日」として広く認識されるようになりました。

現在、学校給食は学校生活において欠かすことのできない教育活動であり、各学校では学校給食を生きた教材として活用しながら食に関する指導に積極的に取り組んでいます。

食を取り巻く環境が大きく変化する中で、改めて、食に対する感謝の心を育むことや、食に対する正しい知識と望ましい食生活を実践する力を養うことが求められています。

そこで、奈良県教育委員会では、令和8年1月22日に「奈良県学校給食カレーの日」を実施し、県内各自治体の協力の下、地域の特色を生かしたカレーの提供を通して、児童生徒のみならず、教職員や保護者の食への興味関心を高める取組となることを願っています。